会議結果報告書

| | |
|---|---|
| 1　会議名 | ごみ処理に関する課題についての意見交換会（ベルパーク湘南茅ヶ崎自治会） |
| 2　日時 | 平成 30 年 9 月 1 日（土）10：00～11：00 |
| 3　場所 | ベルパーク湘南茅ヶ崎集会所 |
| 4　出席者 | （資源循環課）熊澤課長、下舞主任<br>（環境事業センター）林所長補佐、鈴木主事<br>（ベルパーク湘南茅ヶ崎自治会）参加人数：18 人 |
| 5　内容 | 本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。<br><br>●平成 44 年度の年間ごみ排出量は、家庭ごみ有料化と、戸別収集を実施した場合のデータか。<br>→実施していない場合のデータである。人口減少や資源物の品目拡大により、ごみ排出量が 10%減ると試算されている。<br>●最終処分場の使用期限は 2033 年度までであるが、それ以降は使えないか。ごみ排出量が減少しても関係ないか。<br>→ごみの減量が進んでも、2033 年度までの使用期限である。<br><br>●家庭ごみ有料化で、約 20%のごみ減量が見込めるが、本市で導入した場合、収支の試算はどうなっているか。<br>→人口規模の近い大和市を参考にすると、２億 3,706 万円の収支が見込める。それを、ごみ処理施設の整備費や、灰の再資源化の経費の一部に充てる事を考えている。<br><br>●家庭ごみ有料化を導入した場合、今まで通りの袋で出された場合はどうするか。ルール以外の排出方法で、ごみを出された場合の対処法を教えて欲しい。<br>→藤沢市の場合、家庭ごみ有料化導入初期に不適正排出があったと聞いている。生ごみだと、臭いや害虫等の衛生面の問題があるので、結果的に収集したと聞いている。本市も導入した場合、不適正排出等の対応を検討する必要がある。<br><br>●横浜市と川崎市は家庭ごみ有料化と戸別収集は行っていないが、その理由は何か。<br>→検討事項や状況が市によって異なるので、理由はわからないが、検討をしている状況である。<br><br>●焼却灰の再資源化を検討してほしい。スラグにしたり、セメント工場に売ったりして欲しい。<br>→現在、約 1,200ｔの焼却灰をスラグにしたりセメント等にしている。その資源化経費は約４～５万円/ｔである。埋立ての場合は約２万５千円/ｔである。市は再資源化を進めようとしているが、経費とのバランスを考慮している状況である。 |

| | |
|---|---|
| | ●戸別収集が実施されたら、カラス対策が問題となるが、市はどのように考えているか。<br>→実施された場合、カラス対策は今まで通り、排出者がカラス対策を行う様に考えている。藤沢市ではポリバケツに入れて収集を行っている世帯が多い状況である。<br><br>●家庭ごみ有料化を実施した場合、ごみの中で何の品目が減ることを想定しているか。<br>→本市においては、紙ごみや厨芥類、プラスチック製容器包装類の不適正排出を削減したい考えである。<br><br>●有料袋の単価の設定はどのように考えているか。<br>→有料袋を導入した場合、２円/Ｌはごみ減量が進みやすい単価である。導入する場合は他市を参考に単価設定を行う予定である。<br><br>●戸別収集を行った場合の収支を教えて欲しい。<br>→試算中である。<br><br>●自治会の加入者が減ってきている。加入していない人への啓発を徹底して欲しい。<br>→実施する場合は啓発方法等を検討する必要がある。<br><br>以上 |